



暑中お見舞い申し上げます

熱中症にご注意を!



～「水」のおはなし～

水循環基本法（平成26年法律第16号）により、毎年8月1日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として「水の日」と定められています。

同法により国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされており、毎年水の日に関する行事やイベントが開催されています。

<世界中で9カ国のみ！>

海外で、水道水を安全に利用できる国はかなり限られています。

2018年の国土交通省の調査によると、**世界で安全に水道水を利用できる国は、9ヶ国と2都市のみ**であることが分かりました。

また、**水道水を利用できるが注意が必要な国として21ヶ国**を挙げました。

世界には約200の国がありますが、水道水を安全に利用できる国は下図のようにたったこれだけ。**アジア諸国では日本だけ**となっています。

世界中ではまだまだ水道整備は整っていない状況で、アフリカなどでは水道水の改善に力を入れていて、安心して飲める国も出てきているようですが、これから先もそう簡単には改善しないというのが現状です。

日本人からすると、想像と少しギャップがあるかもしれません。

(個人的にもそうでした)

しかしこれが現状です。

もし旅行などで**海外に行く機会**があるのであれば、**海外の水道水の原状や問題は知っておく必要がある**と思います。



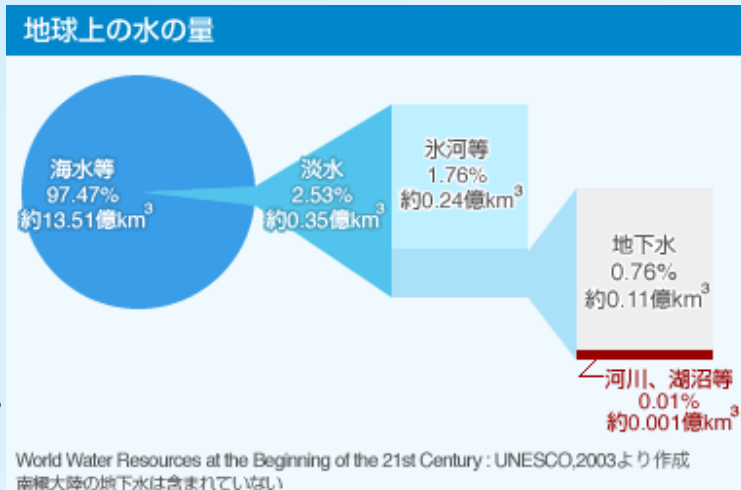
地球上の水資源、わずか0.01%

地球上には約14億km³の水があると言われています。しかしその中で、私たちの生活に利用可能な水資源は、わずか0.01%程とされています。

地球上の水の多くは塩分を含む海水で、その割合は97%で残りの淡水も、多くは氷雪、氷河の形態で存在しており、利用できません。

さらに、残りの液体状の水のうち、ほとんどは地下水として地中深くに浸透しており、人間が利用可能な淡水はたったの0.01%ということになります。

この貴重な水資源も、汚染してしまえば当然利用ができなくなり、これが地球上で水不足が発生する基本的な構造とされています。



<日本のバーチャルウォーター問題>

バーチャルウォーター（仮想水）とは、ある食品を輸入した国が、その食品を自国で生産するとしたらどのくらいの水が必要になるかを推定して数値化したものです。

食品を輸入するという事は、その食品を生産するのに使われた水を輸入している、という考え方です。



日本の食料自給率は約37%で、食料の多くを輸入に頼っています。つまりバーチャルウォーターも踏まえて考えると、日本は大量の水を海外から輸入していることとなります。

東京大学生産技術研究所の試算によると、日本が輸入した食料をバーチャルウォーターに換算した場合“年間640億m³”になるそうです。

日本国内の水使用量は年間800億m³前後であることを考えると、かなりの量であることが分かり、日本は食料輸入大国であると同時に「水輸入大国」といえます。

日本は水の豊かな国と言われていますが、バーチャルウォーターの観点を加味すると、海外の水資源に大きく依存しているという現状で、水資源の問題は今後、日本の食料供給に影響することになりそうです。

「売・貸物件 募集中です！」

ネットに掲載して反響アップが図れます！
掲載料や面倒な手続きは必要ありません。
「ご依頼」を頂くだけで結構です。

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～

マルヒロ不動産

名古屋市中村区横前町109

TEL: 413-4628

